

令和元年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月14日実施)	総合評価(月日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・それぞれにその人らしい「自立と社会参加」につながる「生きる力」を育成する。	・自立と社会参加に向けた具体の取組みの拡充を図り成果に結びつける。	①児童生徒の実態等の情報共有を徹底し交流の拡充を図る。 ②主権者教育の充実を図り生徒の実態に応じた模擬投票を実施する。 ③新学習指導要領に基づいて教育課程を見直し改善を図る。	①他部門同学部間、同部門他学部間で児童生徒の実態等を共有して交流したか。 ②生徒の実態に応じた模擬投票を実施したか。 ③新学習指導要領に基づいた教育課程の見直しを行ったか。	①情報共有を図りながら校内交流を実施できた。 ②生徒の実態に応じた選挙体験学習を実施した。 ③実施年度に合わせ段階的な見直しを行った。	①PDCAサイクルにのせて取組みを継続する。 ②有効な支援方法を法律に抵触しない範囲で行う必要がある。 ③教育活動の質の向上に繋げるべく見直しを行っている。	<保護者アンケート> 4点満点 (H30年比) [H29年比] 満足度 : 3.39(0.01↑) [0.05↑] 授業改善 : 3.46(0.04↑) [0.10↑] 引継反映 : 3.49(0.05↓) [0.12↑] <学校評議員> ・模擬投票にとどまらずに「自分の事は自分で決めよう」という主権者教育が必要。 ・重症心身障害児でも意思表示、主体的、対話的で深い学びが可能である。	①校内交流の拡充が図れた。取組みの継続が必要。 ②主権者教育の充実が図れた。生徒の実態に応じた取組みの工夫が必要。 ③教育課程の見直しが進んだ。取組みの継続が必要。	②PDCAサイクルにのせ取組みを継続する。 ②自己選択、自己決定に繋がる教育活動と指導支援の充実を図る ③学部毎の見直しを段階的に進めていく。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	・児童・生徒(・保護者)の一人ひとりのニーズに応じた支援・指導を行う。	・児童生徒一人ひとりのニーズ把握を適切に行うとともに指導の充実を図り成果に結びつける。	①学部と専門職間で課題改善策を協議し協働連携の拡充を図る。 ②生徒による授業評価を継続実施し授業改善を図る。 ③アセスメントを活用した指導実践の成果と課題を共有し組織的な展開に繋げる。	①学部と専門職間で課題改善策を協議し、協働連携の具体の改善に結びつけたか。 ②生徒による授業評価を実施し分析結果を授業改善に活かしたか。 ③アセスメントを活用した指導実践の成果と課題を共有し組織的な展開に繋げたか。	①学部と専門職が連携し個別教育計画を策定した。 ②高等部生徒による授業評価を実施し結果活用した。 ③多くの学部で組織的な取組みを行うことができた。	①部分的な連携を更に広げるべく仕組を整える。 ②結果活用が授業改善に結びついていくか要検証。 ③取組みが部分的なものに留まっている。実績の積み重ねと取組みの拡充が求められる。	<生徒アンケート>高評価と低評価(94%)行事の取組み➡主体的参加(50%)運動の目標➡立て方に課題 <保護者アンケート> 学習内容 : 3.40(0.03↓) [0.12↑] 意見反映 : 3.49(0.01↓) [0.04↑] 状況把握 : 3.50(0.04↓) [0.10↑] <学校評議員> ・生徒による評価は素晴らしい。今後、将来に役立つこと、生活を豊かにする事、その時代にしかできない事について取り扱うと更に良い。	①専門職活用が進み指導の充実が図れた。連携の更なる拡充が必要。 ②生徒による授業評価を継続実施しアンケート結果を授業改善に生かした。検証が必要である。 ③アセスメント活用を実施し指導の充実に生かした。より組織的な取組みが必要。	②専門職との連携に係る課題を整理し拡充に繋がる仕組を整える。 ②生徒のニーズを把握し授業改善に向けた取組みをPDCAサイクルにのせ取組みを継続する。 ③各学部の取組みを部門内で共有し指導支援の一貫性を保つ仕組を整える。
3 進路指導・支援	・将来の一人ひとりの生活の充実をめざし、発達段階に応じた進路指導・支援を行う。	・生徒や保護者のニーズに合わせて進路支援情報を提供するとともに情報の浸透を図る。	①保護者への情報発信の回数・方法・内容等の工夫を行い情報の浸透を図る。 ②全職員対象の進路支援に関する研修を行い学部学年の進路指導の充実を図る。	①進路説明会や事業所説明会等の充実を図るとともに発信した情報を保護者に浸透させることができたか。 ②全職員対象の進路支援に関する研修会を計画し実施したか。	①事業所説明会に128名が参加し、進路学習会に39名が参加した。 ②高等部職員向けの研修を計画実施した。	①見学会の時期、場所、方法等を更に工夫し参加人数の増加を図る。 ②来年度は研修内容を日常の指導に活かせるよう年度当初に実施する。	<保護者アンケート> 情報提供 : 3.52(0.01↓) [0.15↑] <学校評議員> ・卒業後のケアの充実を図ることが大事。 ・資格取得に向けた取組みが有ると良い。	①多くの保護者に情報提供ができた。取組みの継続が必要。 ②進路支援に必要な情報を職員に提供できた。開催時期に課題あり。	①より多くの保護者のニーズに応えるべく工夫を行う。 ②年度当初に研修会を設定する。
4 地域等との協働	・インクルーシブ教育の進展・	・地域等との協働を推進し地域と連	①共生社会づくりの当事者としての自覚を深	①地域等との連携行事や教育活動に当事者意識を持ち主体	①地元地域の小学校やコミュニティ	①共通理解を図るべく交流相手との	<保護者アンケート> 地域連携 : 3.36(0.00↑) [0.20↑]	①地元地域の教育資源の開拓と繋が	①地域へ出ていく教育活動の拡充を

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月14日実施)	総合評価(月日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	共生社会の実現に向け、支援の必要な方々の理解を進める。	携した教育活動の拡充をさらに図る。	①め、社会参加の取組みを拡充する。 ②学校ホームページのリニューアルを通して情報発信に関する課題改善を図る。 ③地域との連携や協働の拡充に繋がる取組みを継続し地域に開かれた学校としての理解推進を図る。	的に積極的に参加したか。 ②学校ホームページのリニューアルを行い課題を改善したか。 ③理解推進に繋がる取組みを継続実施するとともに地域への情報発信を適切に行ったか。	との交流活動を主体的に行った。 ②学校HPのリニューアルにより情報発信の円滑化が図れた。 ③就学や入学選抜に係る見学会等を実施するなど地域との密な連携を図ることができた。「学校へ行こう週間」を計画実施した。PTA共催の夏まつりを計画実施した。	定期的な打合せの場の設定が必要。 ②掲載情報の分かりやすさの追求と内容の充実を図る。 ③実施回数や時期の見直しを行い充実を図る。「学校へ行こう週間」は他の見学会に置き換え解消する。夏まつりは効果的な活動の在り方を検討する。	<学校評議員> ・障害が最重度の子が一般の中に入っていくという時代になってきている。 ・地元コミュニティセンターにおける児童生徒の作品展示が好評であり喜ばれている。 ・地域とこれだけ繋がっている特別支援学校は稀であり、教職員の姿勢の表れでもある。 ・防災について地域と連携した体系立てた取組みが求められている。 ・今後も学校見学についてオープンな姿勢を持ち続けて欲しい。 ・町民市民代表である議員向けの学校見学会等を通して理解を広げるのも有効である。	りの強化を図ることができた。取組み継続が必要。 ②学校ホームページを通じた情報発信に関する課題の改善が図れた。分かりやすさと内容の充実が求められる。 ③各種見学会や学校開放事業を通して本校の理解推進を図ることができた。	図る。 ②学校ホームページの管理や更新作業の強化を図るべく人材育成に取り組む。 ③より多くの地域住民に学校に来てもらう取組みの充実を図る。
5	学校管理 学校運営 ・児童生徒が行きたい学校、保護者が通わせたい学校、職員が働きやすい学校、地域に信頼された学校作りを行う。 ・事故・不祥事がなく、安全と安心が確保された環境を整え、組織的な学校運営を行う。	(1) 組織的な学校運営を進めるとともに、チーム力の向上を図り協働体制のさらなる強化・充実を図る。 (2) 不祥事防止に繋がる具体の取組みを継続実施し不祥事防止に対する意識の維持向上や定着を図る。	①「歯・口事業」「関節研」を通して協働連携のスキル向上を図る。 ②教職員アンケートを継続実施し分析結果をPDCAサイクルにのせ課題の改善を図る。 ①職場のコミュニケーションの向上を図りチーム力の発揮に繋げ児童生徒への指導支援の充実を図る。 ②個人情報フォルダの活用を継続実施するとともに個人情報の取扱いルールの定期的確認を行い不祥事防止の意識の維持向上を図る。 ③会計担当者会の内容の充実を図るとともにチームによる協働連携を強化し適正な会計処理を行う。	①協働連携に必要なスキルを共有し高めあったか。 ②教員アンケートを継続実施し結果を改善に生かしたか。 ①所属学年やチーム内の「報告・連絡・相談」が日常的に円滑に行われたか。 ②個人情報フォルダを組織的に活用するとともにルール確認を定期的に行ったか。 ③私費会計業務が適正且つ円滑に行われたか。	①校内研究に位置付け各学部や関係部署が協働連携し取組めた。 ②教職員アンケートの結果を分析し学校運営の改善に生かした。 ①各学部各部署が必要な情報の共有と共通理解を日常的に図ることができた。 ②個人情報フォルダの組織的な活用が定着し、ルールに関する共通理解も図ることができた。 ③会計業務が適正且つ円滑に行われた。	①「歯・口事業」でのチーム間の役割の明確化や分担を更に進める。 ②継続実施と新グラウンドデザインに合わせた内容の見直しを検討する。 ①引き続き情報交換、共有、共通理解のための取組みを行いチーム力の向上を図る。 ②年度替わりの人事異動や部署替えに伴いルール等の再確認と共通理解を図る必要が有る。 ③年度替わりに伴う新担当者に向けた研修が必要。	<保護者アンケート> 健康安全：3.61(0.01↑)[0.12↑] 職員対応：3.60(0.05↓)[0.13↑] 私費会計：3.60(0.04↓)[0.07↑] ・下校時の駐車場について、危険と感ずることがあり、工夫が必要である。 <学校評議員> ・安心して学校生活を送れるよう一人ひとりの学びを保障することが大事。	①協働連携が進みチーム力向上に繋がった。負担の偏りの改善が必要。 ②アンケート結果を学校運営の改善に生かした。継続が必要。 ①情報の共有と共通理解が図られチーム力の向上に繋がった。取組みの継続が必要。 ②個人情報の取り扱いに関する意識が高まり行動に結び付いた。取組みの定着を図る必要がある。 ③私費会計業務の適正且つ円滑実施ができた。担当者への入替えに伴うルール徹底が必要。	①チーム間の役割の明確化と分担を細分化し取組みを進める。 ②新グラウンドデザインに合わせた見直しを行い取組みを継続する。 ①チーム毎の実情に応じた工夫を行いながら取組みを継続して行う。 ②年度替わりの時期にルール確認を行い共通理解の徹底を図る。 ③会計担当者会を通して新担当者への業務説明を丁寧に行いルールの徹底を図る。